〔第三種郵便物認可〕　昭和十一年五月七日　磐城新聞　〔木曜日〕　第四千六百十六號　〔一〕

夕刊
五月六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

感激的の論調

昨日の東京各紙を見て

赤井嶽男

戒嚴令下に召集された特別議會の開院式に於て、特別なる　聖旨を垂れさせられ進んで忠良なる臣民の向ふ處を示されたのを拜したに就ては、當に議會のみならず一般國民の眞に恐懼に堪へざる處として、昨五日の東京大新聞は恰も申し合せたかの如く一齊に卽今の時局に處する國民の襃奬を激勵する社說を以てした。同一問題に對する各紙觀察の角度は蓋し大同小異で『國民は之際寸劃も晏如たるを許さぬ』と云ふのが一貫した筋書きであるが、人の上でなければ——と無氣の顏の異る如く各紙の主觀味の薄詞を殘して居る。一番簡明なのは東日の三十三行『畏き勅語』で居るのは爭はれぬ事實である。最に於ては『聖勅を拜して』と題した報知の百四十行が第一で冒頭肅軍に就て政府及び議會の思慮見解を糺し

　岡憲國法の遵守強調に關して正確なる事實の徹底

議會政治に對する齋藤、岡田、廣田各首相の色盲的謬見、それから內審廢止內閣調査會存置の矛盾等々を論じ次に讀賣は正味一段に『閉院式の勅語を拜して』なる題下に

　——勅語を拜した國民の感激から。奉答文の起草及びその議事も從來の如き形式的慣例に捉はれず聖旨を奉戴して立法府の職責を完ふせんと期する

と云ひ更に

　廣田內閣は時難を匡救するに必要な聰明さもなければ所信を斷行する勇氣にも欠けて居はせぬか、萬事を特別議會後に讓らうとして居る悠長さに於て之の感無きを得ないと一七深くその肺腑を抉つた。凡ては今議會の行動を見れば所信を斷行する勇氣にも欠けて居はせぬか、萬事を特別議會後に讓らうとして居る悠長さに於て之の感無きを得ないと一七深くその肺腑を抉つた。凡ては今議會の行動を見

次第。『朝野和協文武一致』の聖旨に對へまつらんが爲には擧國更に熟慮反省一層精進する處無ければならぬ——

として我國民代表の國政審議に與る議會の活動を期待し東朝は『勅語を拜す』の題下に

　宸襟を安んじ奉るの責任者は首相、陸相、政府關係當局貴、衆兩院議員である。轉禍爲福の對策を講ずるはこの特別議會に課された重大な任務である——云々

とあつて何れも議會の職能を重んじ給ひたる大御心に對し奉り萬一の報恩を效す所以を强調したもので頗る感激の文字のみであつた

磐城歌壇

新妻　久滿男　選

『彌生』好問　金成磐洲子

○靜かなる彌生の雨に一人ゐて、時計のひびき聞くも物憂し

○あたゝかき彌生の風を孕みたる、輕き袂をふりて步めり

『いたつき』

○いたつきに煙草の毒を怖れつゝ、紫紺のけむりを我はたのしむ

○脊髓の病はかなしコンクリーの、如くにかたきコルセツト着る

○たまさかに看護婦のみの出入りする、三尺のドアー淋しかりけり

小野　歌を感明なものとして了つては、感情が稀薄に弱められて、只それだけのものとなり切つて了ふ。最も注意すべきことである。これ等の歌は一般に弱い歌である。今一段と深みに突込んで欲しい。兎角病を得るとげん想の力が薄れて來るものであるが、反面に仲々痛切な歌が生れるものである。

高橋是清

松浦泉三郎作

（6）佐々木今朝吾畫

生別離苦　（一）

『えゝ水ウ、冷やツこい水ウ…』

人通りの疎らな、乾き切つた白い路を、湯のやうな汗を額から流し乍ら、若い水賣が走つて行つた。水桶の中から、それが搖れる度に、眞靑な笹の葉が僅がばかり見えた。大釜の底に沈んだやうな暑熱の中に、涼を呼ぶものは、その笹の葉が直ぐに諦めて日陰へ戻つた。

　安政元年閏七月半過ぎ。黑船騷ぎなど、何處にあつたか、と思はれるやうな、靜けさであつた

　芝中門前の料理屋廣瀨屋の前へ、駕籠が停つた。

『へゝどうも、お疲れさんで』

　前棒の男が、鉢卷取つて挨拶した。後棒が、履物を搬へた

『御苦勞さま』

　駕子は、大柄な身體を、ゆつたりと履物の上へ乘せて、女持ちの小さな傘を密の間へ挾んだ

　そこへ奥から、女主人のおりんと、若い女中が走つて出た

『まあ、これは奥樣。このお暑さの中をよくまあ…』

『なんの、霞月町からはほんの一足、今日はかまはず』

『早く鹽つて浴びる程冷めた水でも呑むことさ』

『さあ、早くお下り遊ばして、ゆつくりお涼み下さいから、あの氷でえませ』

『別に變りは……』

『はいはい、お蔭樣で元氣で。が、まあそんな事よりも……』

　おりんは料理茶屋の主人らしい愛想で、時子の手を執らんばかりにして

『あの、お光や。若い衆さん方に何時もだけ……』

　言ひ殘して奥に消えた女中のお光は、盆の上へ湯呑みに一杯宛の水と、白紙に包んだ幾何かの烏目を乘せて

『毎度暑い中を御苦勞さん』

と、笑つた

　二人の駕籠屋は言ひ合したやうに、汚れた手拭でゴシ〳〵首筋の汗を拭ひ乍ら

『あゝたまらねえ。ひでえ汗だ』

『けれどもよ。此處へ來てかうしてお光さんの顏を見ると、お手づからの水を拜領しねえ中にスーツと汗を引くから不思議だ』

『その代り冬はボーツと熱くならうぜ』

『ちげえねえ』

　お光は笑ひを抑へて

『旨く言つてるよ』

『だがよ、お光さん……』

　一人が腰をかゞめて、小聲で

『昨日ひよいツと聞いたんだが、家のおきんちやんがひよんな事になつたんだつてね』

　別の一人も聲を秘めて

『對手は何でも川村の旦那探偵先生だつてえ話があるぜ』

　お光は奥を憚り、手を振つて

『知りませんよ……』

　嚴しく言つた

『剌らねえもんだな』

『おう〳〵山吹だ』

　湯呑を一息に空けて

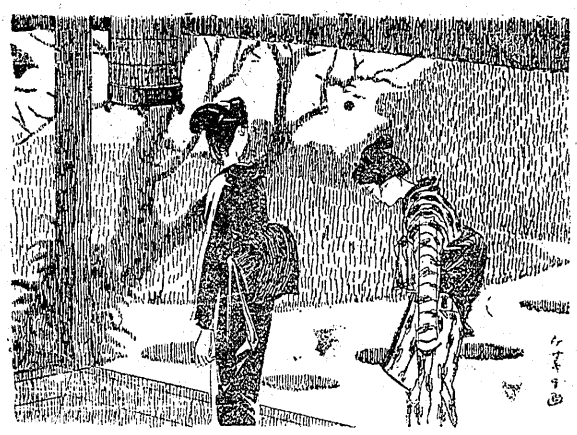
『お光さんはまだか？』

『お內儀さんに言ひ付けるよ』

『おツと奥の手〳〵』

『おばよ』

　二人は笑ひ乍ら表へ出た



投稿歡迎

◇ガソリン車　出現に因り、角者は私かにガ車の思惠越すに死にもの狂ひになる乘合自動車への影響は、實多とするものであるが、吾人の夙に豫想したである之に伴ふ必然の結果としてのがある

　自動車の統制難

◇同業道德に　よつて此つたが、果然先づ或る區間自動車業者間の競爭激化は間何とか統制をとり客とし挨拶した。後棒が、履物を搬へた

◇同業道德に　よつて此に於ける料金の値下げによつて事實化された

◇營業者の苦　痛は誠に察せられて戰々兢々の恐怖から救つて呉れる方法はないものかと同情に堪へぬものゝ之によつて、擔が幾分輕減されたもすれば疾走中前車を追ひ當扇の取締を望む

（湯本にて生）

◇ガ車の爲に　利用者

◇營業者の苦　痛は誠に察せられて戰々兢々の恐怖から救つて呉れる方法はないものかと同情に堪へぬものゝ之によつて、擔が幾分輕減されたもすれば疾走中前車を追ひ當扇の取締を望む

（湯本にて生）

◇同業道德に　よつて此間何とか統制をとり客とし挨拶した。後棒が、履物を搬へた

『御苦勞さま』

　駕子は、大柄な身體を、ゆつたりと履物の上へ乘せて、女持ちの小さな傘を密の間へ挾んだ

　そこへ奥から、女主人の

母

母は疲れてゐるのだ
幾人かの子を
育てて來た母だ
寢入つてゐる內が
いゝのだ
起きれば限りなき
心配事があるのだ
母よ
安らかに
お休み下さい
私は思はず
この尊い
母の寢姿に
合掌した

寄贈書目

△田園創刊號　島田忠夫個人雜誌で小曲白衣の處女短歌悼寺田寅彥先生、童謠詩御野立所童話三つの話、等當人の作品其他各方面からの寄稿が輯められて居る瀟洒な雜誌（須價四十錢、東京市神田區一丁目栗田書店）

△伊東玄朴お玉ヶ池（一）に始て種痘所を設く

△最初の博士廿名生る（明治二一）△英のルシタニヤ號獨潛航艇に擊沈さる（大正四）△エ、伊兩國共積極的軍事行動を開始（昭和一〇）

呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專學校門御用
吸入用酸素
體溫計（メートル　グラス）
御用命次第迅速に御屆け致します。
平町古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所　阿康藥局
電話　四　四　番
振替口座　東京三〇〇六五

磐城名物
靈峰羊羹
小川鄉驛前
平屋賣店

廣告

平町南町五二
產婦人科　根本醫院
電話　三四番
（入院隨時、手術完備）

外科、內臟外科　院長　安齋徹
エツキス光線科
新設……產婦人科　醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意　安齋醫院
電話四七五番

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

返應卽座、卽時乞御試
オレンヂパスタ
神經痛、リウマチス、咽喉痛、筋肉痛、肩のコリ、
福島縣中町字新町二十二番地
桑原整骨院
電話六七四番

整形外科專門
X光線科
醫學士　大河內一郎
柔道整復師　大河內寅男
平町才槌小路四
大河內整形外科醫院
電話五八八

お醫油は……ヤマフル
鹽屋
味噌醬油
たひら正宗
鰹節食料品
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

送り物に
鰹節と
干やなぎ
魚岡屋
平町四丁目　電二一三

平商校の新築敷地は何れにきまるか？

鎌田山、梅香町の望み薄に

最近第四校並行說擡頭して果

商友會等が極力排斥してゐる平商業學校の新築問題は町でも今年度豫算にこれが土地買收費約金三千圓を計上目下敷地の選定に當つて居り此程委員一行が比較的有望と見られた城山裏梅香町並に神谷村鎌田山附近の二ケ所を視察したが梅ケ町地内（畑地）は地價も高く、高壓線二條が橫斷する上に相當の埋立を要し一方鎌田山附近も水源池と殆ど高さが同じ位なので水道の設備不可能等の點から見て双方とも或は絶望ではないかと見られてゐるがこれに對しはや警察署南田副に敷地も決定した第四小學校建設豫定地に若松、郡山、白河の各地で並行して選ぶのが比較的實現可能ではないかとの說も弥走してゐる平擅頭してゐる

商業學校の新築問題は町でも今年度豫算にこれが土地買收費約金三千圓を計上目下敷地の選定に當つて居り此程委員一行が比較的有望と見られた城山裏梅香町並に神谷村鎌田山附近の二ケ所を視察したが梅ケ町地内（畑地）は地價も高く、高壓線二條が橫斷する上に相當の埋立を要し一方鎌田山附近も水源池と殆ど高さが同じ位なので水道の設備不可能等の點から見て双方とも或は絶望ではないかと見られてゐるがこれに對しはや警察署南田副に敷地も決定した第四小學校建設豫定地に若松、郡山、白河の各地で並行して選ぶのが比較的實現可能ではないかとの說も弥走してゐる平擅頭してゐる

即ち第四小學校と町營グラウンドの敷地は現在一萬八千坪で計劃を進めてゐるが若し同所に建設するとせば尙二千坪增して合計二萬坪とし（內グラウンド敷地九千坪）グラウンドを挾み殘る一萬一千坪で第四小學校と平商校は充分建設されるものと云はれ各方面の注目をひいてゐる

帝都事件で活躍した若松兵に慰問袋

愛婦分會で八十個作製

愛國婦人會平町分會では福島支部からの通牒に基き般の帝都事件に際し上京奮闘した若松第二十九聯隊兵士三百五十名の勞をねぎらふため慰問袋八十個を作製來る八日支部宛送る事となつた、尙慰問袋は平及福島川部村　上小川　下小川組合　磐崎村

喜多流謠曲仕舞白土會

喜多流謠曲仕舞白土會の春季大會は來る

農事雜信

石城緬羊聯合會總會は七日午前十時から平圖書館で、尙神谷農事實行組合長會議を六日午後二時から小學校、同村上片寄果樹組合總會を七日大泉組合長宅で開く

失業職工よ何處へ行く

賣れ殘りの百名斡旋に

＝平紹介所の惱み

不慮の災禍から操業不能に陷つた錦村昭和人絹工場の一日も早く復興工事は去月二十五日から每日約三百噸の材料が着荷、清水、中山組の人夫百餘名が出役急いでゐるが遲くも七月末迄には日產十噸の人絹が可能と見られ一方過燐酸工場も去る三日より新事業を開始目下日產五百噸の成績をあげてゐる等豫想外の急速な復興に附近商店九分來平、平區檢事局の初巡視を行ひ、同夜住吉屋本店一泊、翌八日白河方面に向ふ

郡下校長會

明七日午前十時から平第一校に開くすべき旨を特に挿入して政府の決意を明かにする筈であると云ふ。戒嚴令下の議會と云ふ如き異例な場合に於て國民の關心は悉くここに總動員されるのは偖りにも當然なことであらう

×

亡命のエ國皇帝がハイファ港到着れ無い樣な名の看板が平町役場に掲げられた。その昔參覲交代の行列が

河合土木課長

郡內各河川視察

河合本縣土木課長は七日より三日間左記日程で平土木監督所管內の視察を行ふ

七日—新川、好間川、夏井川、八日—蛭田川、鮫川、藤原川、矢田川、九日午後一時から谷口樓で巡視を行ひ、同夜住吉屋本店一泊、翌八日白河方面に向ふ

郡下校長會

明七日午前十時から平第一校に開くすべき旨を特に挿入して政府の決意を明かにする筈であると云ふ。戒嚴令下の議會と云ふ如き異例な場合に於て國民の關心は悉くここに總動員されるのは偖りにも當然なことであらう

×

亡命のエ國皇帝がハイファ港到着

平町を第一候補地に澤村勝爲公の銅像建設

けふ青年評議員會に提案

神谷村青年團計劃にかゝる更生指定村として發表する小川江筋踰鑛の恩人故澤村勝爲公銅像建設案は今六日事業はこれをもつて大体終了する都合である、なほ本委員會に昭和十一年度經濟更生指定村として諮問され郡青年團評議員會に提案されたが豫算總額五千圓像は身長約七尺の立像、形姿は野立袴を着し軍扇を持ち工事監督の英姿を偲ばしめるもので建設場所は第一候補に平町第二小川關場、第三澤村神社境內が擧げられ、工事勞役は小川江筋下關係町村青年團員の奉仕とされてゐる

今年度の經濟更生村

郡下四ケ村指定

縣農山漁村經濟更生委員會は十三日午前十時より縣會議室で開催されるが當日は石城、於し石炭の統計を竝べ樣なもので至つて無味乾燥であり、同市上水道の上正式に昭和十一年度經濟更生村指定村を發表する

十七

以上の外既往から將來にべき點があるとも思はれぬ繫る織都足利を眺める資料から之を省略し起筆以來十として手許には尙ほ最近の七回に亘る記述のエピソード織物生產及取引に關する詳細な一覽表などゐるが之はに於ける足利市の姿を久保

市制を布くには

先進地銚子足利を觀る

○　△　生

市產業の樞軸をなす織物等は種々なる惡條件下に置かれて、動もすれば萎伏を餘儀なくせられたものの如くであつたが、わが當業者傳統の撓まざる精進努力は旋て之を克服打開して一段の飛躍を遂ぐべきを確信する。この間に在つてわが市政は市民各位の協力を得て着々施設の擴充を招來して市制の進展に多大の貢獻をなす處があつたのであるが先年行幸を仰いだ十一月十六日を期として行幸記念祝日と定め不滅の光

増田檢事正

あす初巡視

新任福島地方裁判所檢事局出した江名町長勢丸乘組員に對し石城水產會並に地元江名、中の作兩漁業組合が本等の炭礦から鐵屑、銅線等を前後十數回に亘つて窃取、何れも古物商に賣りとしたのを手初めに內郷、湯長勢丸犧牲者義捐金を募集、

去月二十五日鹽港の途中大時化で遭難八名の犧牲者を遺族に贈ることゝなつた

長勢丸犧牲者義捐金

地元漁業組合等で募集

去月二十五日鹽港の途中大時化で遭難八名の犧牲者を遺族に贈ることゝなつた

復興する人絹七月迄に日產十噸可能

早くも附近に活氣漲る

昭和人絹の失業男工四百五十名の就職斡旋に就いては既報の如く四家平紹介所長が關西方面の各工場を歷訪漸く百四十名の求人口を開拓し近く岡崎レーヨン、岐阜縣西大垣人絹工場に取り敢えず二十名を送り漸次契約濟みの各地工場に住み込ませる事となつた殘る三百餘名の就職は目下各地の紹介所と連絡を三十米の災害復舊工事指名とり一日も早く片づけやうと大童になつてゐるが各地の工場共二十五才以上のものは全然採用せず同所扱ひの前記殘り組三百名の中には二十五才以上のものが約百名もあるので同所では目下これらの斡旋に惱んでゐると

保安林枯死

植田營林署で發見

原因調査中

錦村大字中田字須賀地內にある潮害保安林が最近日每に枯死して行くのを植田營林署で發見目下東京林業試驗場に依頼原因の調査を進める一方錦村長にも報告して對策を講じてゐるが同保安林には數十年を經た老木もあるので附近民から少らず憂慮されてゐる

安食ひするお泥棒？

地方炭礦を荒した

一犯男擧げらる

內郷村大字綴木貸宿奥州屋止宿山形縣最上郡南川村生保田トク方抱女給湯本町大字湯本字天王崎生れ金澤キミ子（二三）は去月三十日前借四十五圓で住み込んだが五日午後二時頃身廻りの品を持つたまゝ前借を踏倒して逃走したので目下平署で捜査中

人騒せの女給

女給だ、元女學校教員だとでつちあげた上に極左分子を情夫に持つて居るなどと原町署を驚かせた女給は飛んだ騒ぎであつた

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は南東の風曇後雨、明日は南の風晴後曇

この親に罪あり

我子を威し文句で盜ませ

自分は好きな酒に浸る

昨報、僅か十二になるわが子をとらへ『盜んで來なければぶつぞ』『ぶつぞ』はいはずもがなの文句で最近ではそれも思はしくないので葬儀人夫等をやり辛じてその日を送つてゐたもので

この父ならぬ父に操られた三郎（二）—假名は物を盜んで來ると機嫌のよい父親の笑顏見たさに一昨年の春コソ泥を働いたのが惡の第一步以來父親からそゝのかされるまゝをしてゐたものだと云ふ

女給の逃走

平町南

間借りしてゐた若い燕と道行さ

病身の人妻に捜索願

相馬郡新館村大字声股伊次稱宮城縣刈田郡遠刈田町生郎妻門馬セン（三五）は去月二れ時計修繕業佐藤吉之助十八日夜夫の不在中病氣のため同郡原町大隈醫院に行つて來ると出かけたまゝ行方を晦ましたが同家に三月から平署へ程前から間借りしてゐた自

鮎華微笑（今日の問題）

廣田首相はけふの貴、の上一旦落着かれると傳へられる聖地イエルサルム（IERUSALEM）はヘブライ語で『平和の市』の義で處三郎は素早く押し入れに喬藤九方の女給植田町東田身を隱し發見されるや『便所へ行きたいから』とだまし所へ行きたいから』とだまし首都が果して所謂平和の市であるか『逝くもの斯の如し矣』と云つた蓬花をこね警官のすきを見て汲取口から逃走して間もなく捕はれたがこの巧妙な手段に係官も驚いてゐる

所得稅調查委員會

平稅務署管內の今年度所得稅調查委員會は今六日午前十時から同署樓上に開かれ來る二十日に終了の見込み

郡下方面委員會　八日午後一時から平第三小學校に開き農繁期保育事業其他に關し協議する

磐城の御みやげ品

名物　靈峰羊羹　金十錢

姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。

御旅のお出入には每個のお土產品です。小寶御希望の方お申越下さい。

小川鄕驛前

製造發賣元　平屋賣店

耳鼻咽喉科

高柳醫院

平驛前（電三三六）

醫學博士　高柳博明

（入院應需自炊ノ便アリ）